

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は共有し、ミーティング時に確認しケアサービスの実践に繋げている。「自分らしく心安らぐ居場所になるよう」に近づけるよう努めている。	開設時から掲げてきた理念の見直しを職員全員で再確認して共有化を図っている。地域や利用者の思いや願いを支えていけるサービス提供を目指した「自分らしく心安らぐ居場所になるよう・・・」にと、改善された理念を掲示し、家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりに思いが伝わるサービス実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加している。また週1回地域の方がボランティアとして来てくださる。地域の老人会の環境整備も年1回来てくださる。毎月の広報誌の呼びかけにペットを連れて遊びに来られたり野菜を届けてくださる。	地元の地域行事には積極的に参加している。地域の方々の定期的ボランティアの訪問、野菜作り、草取りなどを利用者と一緒にやっている。また、お茶会を一緒に楽しむなど、地域との交流には力を入れている。今後も福祉実習を受け入れるなど、福祉現場の啓発に努めたいと前向きに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月事業所における認知症の方々の生活・認知症の理解について広報誌を通じ情報発信している。また年1回地域包括支援センターと共同で認知症の研修会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催し委員の方々から頂いた意見をその後のスタッフ会議にて検討しサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、会議では日々の状況や実践の取り組みについて報告し意見を伺っている。会議内容の結果については、利用者家族にも送付し意見を聞く機会を設けている。また、職員にもスタッフ会議で伝達検討することでサービス向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは昨年運営会議に出席いただいた。また地域会議に出席して地域の問題などの情報交換をしている。また防災訓練では消防署の方の協力を得て消火器訓練を行っている。	地域会議には積極的に参加しており、事業所の情報を伝え、相談、指導、助言等をいただき、日々のケアサービスに繋げている。また、防災訓練でも消防署の協力を得て消火器訓練を実施するなど、市町村との連携を深めた取り組みに積極的である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の権利擁護委員会による取り組みを通して、日常のケアの中で、身体拘束につながらないように意識して取り組んでいる。	法人内に権利擁護委員会が設置され、身体拘束をしないケアについて協議検討を行っている。安全面や言葉の拘束に配慮した取り組みが行われ、身体拘束に繋がる抑制はされていない。定期的に研修を実施するなど、管理者、職員の意思統一が図られている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員参加の研修会や定期的にテーマを決めての取り組みを継続して行っている。	法人全体で虐待防止に関する研修を行ない「言葉についての虐待」には全体でシュミレーションをしながら検討・反省会を行い、法人全体で虐待防止に関する理解の浸透に向けた実践に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中で、成年後見制度を利用されている方がおられるので、今後も制度について職員が周知できるように取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際には、十分に説明させて頂き、理解を頂いた上で契約している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関を設けているとともに広報誌の発送の際意見を頂くような声かけや、意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。またご家族を行事にお誘いし意見を頂くように努めている。	第三者機関を設けていると共に、2ヶ月毎に家族へ広報誌を発送し、「安心された生活」を日々過ごしていることを伝え、意見をいただく工夫を心掛けている。また、行事参加時には声をかけ、気軽に話してもらえ雰囲気づくりに努めている。家族からの意見や要望等は運営推進会議等で協議し改善に向けた努力を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや毎月のスタッフ会議にて話し合い繁栄させている。	管理者は会議に関わらず、普段から利用者や職員の要望、提案、アイデア等を聞くと共に、カンファレンス、スタッフ会議を設けるなど、意向を把握して業務改善に繋げて行く体制の整備に注力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており、半期ごとに評価を行い目標設定し向上心を持って働けるような環境となっている。臨時職員は、人事考課は行っていないが、半期ごとに話し合う機会を持ち、目標を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にてカリキュラムが確認されており、経験年数等によって研修に参加している。法人内GHで新人に向けて「認知症の理解」についての研修会を行っている。各自資格取得に向けて研修を受けやすい環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で地域密着型施設の施設長会議を毎月開催し、情報共有や研修会を通じて、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に真摯に耳を傾けたり、親しみやすい関係づくりに努めている。今までの暮らしぶりをお聞きしたりご意見を確認し、ご本人を支援する良い関係作りになるべく努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に真摯に耳を傾けている。またご意向を確認し、ご本人を支援する良い関係作りとなるべく努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前面接の段階で、ご本人やご家族の意向を確認し初期の段階よりご本人の求めておられるサービス提供ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持つておられる力やできる力を強みにとらえて、日々の暮らしの中で職員と共に暮らしを支えて頂ける様な支援をしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員と一緒に、ご本人を支えて行く為に、常にご家族に報告したり相談させて頂いている。ご家族から行事に参加してもらい、利用者との絆を大切にしながら職員と良い関係になるように努めている。	今までの暮らしが継続されるよう広報誌にお便りを添え、事業所での暮らしぶり「自分らしく心安らぐ居場所になるよう…」の状況を報告したり、相談を持ちながら家族からの情報も大切に共有している。積極的に敬老会、新年会等の行事に家族より参加をいただくことで、本人との関わりが深めていけるような場となっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもご家族や知人・友人が訪ねて来て頂けるよう配慮している。またご家族の協力で一緒に外出できるよう支援している。	地域に暮らしている馴染みの友達や親戚の方が気楽に訪問できる雰囲気づくりがなされている。突然の訪問にも対処できる姿勢も配慮されている。また、希望があれば家族と一緒に馴染みの場所へ出かけるなど、関係が継続できる支援にも丁寧に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いの居室を行き来され話ができる環境を整えている。また一緒に外出したり、リビングでの会話が自然とできるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去された後は、他の施設に入所された場合は、面会に訪れる場合はあるが、支援はしていない。退去に当たりスムーズに移行できるように支援している。必要があれば相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのニーズを把握するように努めている。言葉で表現できない方は、普段の生活の中から表現・行動等で探りながら職員間で検討し支援している。	日々の関わりの中で、本人の思いや意向の把握に努めている。言葉で表現できない方に対しては、本人の気持ちに寄り添いながら、毎日の生活の中で細心の注意を払い、真意を推し量るよう心がけている。また、収集された情報については、パソコンで管理されており、職員との共有もなされている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしや生きてこられた背景を職員が把握することは重要と考え、入所前にご家族やご本人からの情報を大事にしている。また入所された後もあらゆる機会に捉えることができるように努めている。	入居前に自宅を訪問し、これまでの生活習慣や本人のこだわりなど、詳細の把握に努めている。入居後においても、本人の様子を踏まえた上で、適切な支援を行っている。また、ケアマネージャー等を通じて、過去のサービスの利用状況や経過について情報を提供してもらい、本人の能力を引き出す取組も行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや日々の職員間で共有している。(介護日誌等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と居室担当者が中心となりご本人の意向や状態を踏まえて、よりご本人らしく生活して頂ける様な介護計画を作成している。また毎月担当者がモニタリングを行い、計画的に総括している。	担当者と居室担当者が、利用者や家族の意向を十分に踏まえたうえで介護計画を作成している。計画の実施状況は、毎日、記録を作成し、職員間で共有している。また、ミーティングでは、担当者以外の職員からも、気づきや意見を収集しており、毎月のモニタリングや、3ヶ月ごとの計画の評価・見直し時に検討を加え、介護計画に反映させている。	定期的にミーティングやカンファレンス、モニタリングを開催し、本人や家族の意向を踏まえて介護計画が作成されている。今回、そうした中でカンファレンスの実施記録が確認できない現状があった。今後も本人のニーズを改善していくためには、カンファレンスの内容が必要とされるので、常に明確な記録も保存しておかれることが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの実践・結果・気づきを記録し、職員間で共有している。また毎月居室担当者がモニタリングを行い定期的に計画作成者が総括を行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	限られた職員の中で、ご本人・ご家族のニーズを捉えなるべく柔軟な支援をするべく取り組んでいる。少しずつではあるが、ボランティアの力を活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の定期的ボランティアや戸野目小学校との交流も継続できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認し受診に繋がっている。協力病院へは、定期的に受診している。	入居当初は本人や家族の希望に応え、かかりつけ医との関係を築きながら受診の対応を行っている。入居後は生活が安定した頃を見計らって、事業所の協力医に移行される方が多い現状である。また、定期的な受診は、適宜対応しており、病状によっては、家族とも連携しながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHでは常勤の看護師はいないので、グループ内の看護師に適宜相談しながら指示を受けている。また協力病院やかかりつけ医師の指示を仰ぎ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の関係者と情報を共有し、退院後の協力病院に繋げるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は行っていない。代表者が認知症の進行で重度化になった場合は、対応できる施設への意向を考えるようにとの考えの為、入居された当初よりその旨をご家族にお伝えしている。施設移行の際は、十分な話し合いを行っている。	ハード面における整備が十分でないため、終末期の対応は行っていないことを入居契約時に説明し、同意を得ている。入居後に利用者の体調が急変したり、認知症状が重度になってしまった場合などにおいては、移行先が決まるまで、最善を尽くして対応している。移行先の決定時には、十分な情報提供を行い側面から支援に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の訓練については年1回グループ内(母体)にて行っている。またノロのシュミレーションについても適宜行っている。	全職員が年1回、消防署主催の実技講習に参加し、心肺蘇生法やAEDの使い方、異物除去の方法などの各種訓練を受けており、利用者の急変や事故発生時に対応できるようにしている。また、ノロウィルス感染対策では、嘔吐した場合の処理方法を始め、具体的な対応を想定した訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っている。そのうち1回は、町内の方から参加して頂き、地域との協力体制は築いている。	避難訓練には町内会の方々からも参加してもらい、夜間の訓練も実施している。実際に避難場所も確保され、避難誘導の方法・手順もマニュアルで定まっており、それぞれに担当を決めて、責任の所在も明確にしている。自治会からは個人宅の車庫を避難場所として提供を受けるなど、地域との協力体制も築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人として尊重した言葉かけや対応を行っている。	職員は利用者の心身の状況やその場の雰囲気に合わせて、気持ちに寄り添いながら対応している。また、勉強会等の場では、日々の関わりの中での利用者への失礼な言動や尊厳を欠くような場面がなかったかの振り返りを行っている。そうした振り返りの結果から、プライバシー保護の観点から正面玄関のトイレにカーテンを取り付けるなど、実際の改善に繋げているケースも図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけをしているし、心がけている。なかなか思いを表現できない人に対し、あらゆる場面で支援出来ているかは、課題である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人の人として尊重した言葉かけや対応・その人のペースに合わせた希望を支援するように努めている。9人の方一人ひとりの希望をすべて支援できるかは、共同生活の枠の中では困難であるが、職員の意識づけはできている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を着ていただく、好きな髪形や髪の色等ご本人の意向を踏まえた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の好みに沿った、また季節のものを取り入れたメニューにしている。一人ひとりの力に応じて職員と一緒に調理作業を行った後片付けも毎食後一緒に行っている。	献立は利用者の希望を聞いて職員が当番制で立てている。利用者は食材の調達や食事の準備、後片付けなども行うこともある。茶碗や箸は本人愛用の物を使用しており、誕生日などのイベント時には、外食や出前を取るなどの個別支援も行っている。「食事」を生活する上での大切な活動として位置づけ、丁寧に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、グループ内の管理栄養士にメニューの内容を報告しチェックを受け、必要時には、改善している。その他の支援はできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行っている。介助が必要な方、見守りが必要な方一人ひとりの状態に合わせて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録等で排泄パターンを把握したり利用者の行動やしぐさ等観察し、必要に応じて誘導している。失敗にて自尊心を傷つけないよう配慮や紙パンツ等の移行についても現状を確認して配慮している。	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄間隔を把握した上で、本人の自尊心を傷つけないよう自然体でトイレ誘導できるよう工夫している。また夜間も利用者の安眠を妨げないよう工夫した排泄支援も行っている。現在、殆どの利用者が排泄用品を必要とする状況にあるが、出来るだけ現在の段階を進行させないよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の観察を行い、食事や飲み物等を工夫したり、十分な水分を摂って頂くよう配慮している。屋内・屋外での散歩や体を動かすレク等を取り入れ予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴はして頂いている。ただ時間帯については9人の共同生活であるので、一人ひとりの希望に沿った入浴になるように心がけている。	入浴の時間帯は、主として午後に設けられており、原則として利用者全員が毎日入浴している。同性介護を希望する場合は、その都度調整して対応している。入浴を拒否される場合、無理強いせず見守った上、本人のタイミングに合わせている。また、体調不良で入浴できない場合、陰部洗浄や手浴、足浴などで、清潔の保持に努めている。入浴を楽しんでもらうため、季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯なども施され、リラックスタイムへの配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの暮らしが繋がる様に、環境を整え安心して休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解と確認に努めているが、今後も職員全員が、全利用者の把握ができるように努めたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いを持って日々暮らして頂ける様に、ご本人のできる力や持っておられる力を活かし、楽しみにつなげて支援している。今の生活を楽しんで頂けるよう無理のない範囲で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には一人ひとりの希望に添うことは難しいが、ゴミ出し散歩や買い物等に出かけている。また季節を感じて頂ける様な外出を取り組んでいる。更にご家族の協力を得て、個別外出を楽しんで頂いている。	日常的な外出支援としては、散歩や食材の調達、ゴミ出しなどに随時誘って一緒に出かけている他、地域の祭りや小学校の運動会、日帰り温泉や近くのダムへのバスハイクなど、イベント的な外出支援にも取り組んでいる。今年の春に行った高田の夜桜ツアーは利用者からも大変好評を得た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本部の方針で日常的にお金を持って頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙は自由にして頂いている。ご本人の希望があれば、好きな時間に電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して過ごして頂ける様に一般家庭に近い環境となるように配慮している。廊下には活動写真・リビングには手作りカレンダーを掲示し時間や季節がわかる様に工夫している。	環境の整った家庭的なリビングは、利用者が和気あいあいとして寛いでおり、和やかな雰囲気を感じられた。廊下には地域の文化祭に利用者と職員が一緒になって取り組んだ思い出の作品が展示されている。また各居室前の空間を活用して、全員揃って健康体操を行うなど、生きる意欲を育むための支援・工夫が行われており、居心地の良さが随所に感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた狭い共有空間であるが、利用者同士交流出来る様にソファや椅子の位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は4畳半と狭いため、ベッドを入れると一段と狭くなっている。入居の際には使い慣れた物を持ち込んで頂く様お願いしている。居室担当者中心にご家族とも協働してご本人がよりくつろげる空間になるよう配慮している。	こじんまりとした居室内ではあるが、収納庫の設置もあり、きちんと整理、整頓がなされ、家庭的な雰囲気である。自宅からは、本人が大切に使っていた家具や調度品が持ち込まれ、自室とのギャップを感じさせない工夫がなされている。また、居室の入口には、職員の手作りによる防災頭巾が配備されており、利用者への思いやりが感じられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手狭な空間であるが、その場所がどのような意味を持った場所かわかる様に工夫している。		